

屋代南高校生が科学教室を開催 ~ 7月22日(金)6年生を対象に ~

屋代南高校3年生17名が、総合学習(前期)で学習してきた科学工作・実験を6年生に教えにきてくれました。こうした交流も3年目になります。

- 【内容】** A ミニ熱気球 B スーパーボール C ストロー霧吹き
 D ペットボトル空気砲 E バスポム F ストローとんぼ
 G リングリンググライダー H ベえべえ笛



バスボム(入浴剤)



熱気球



空気砲

6年生は、実験ブースで、その現象に歓声をあげたり、実際に作ってみたりと、楽しい時間を過ごしました。科学への興味関心を高めるとともに、高校生へのあこがれをもつことができました。

高校生は、丁寧に説明をしたり、やさしい表情で一緒に作ってくれたり、普段は体験することの少ない異年齢の児童と交流を楽しんでいました。教えることの喜びを体験するとともに、社会へ出る責任感を確かなものにしてくれたことと思います。

これから、6年生は、中学への進学が、より現実のものとして感じられるようになってきます。中学3年間はあっという間で、それは次の自分の進路を決定していく(多くの子どもにとっては、自分にあった高校を見つけ、希望を膨らませる)ときでもあります。今回の学習が、自分の将来を考えるよい機会ともなればと願っています。また、南高校には、休日の児童体操教室等でも、児童の成長にご尽力いただいています。心より感謝です。

いよいよ夏休み(7/28(木)~8/18(木)) 安全で・健康な休みに!

プール、当番活動等での登下校の際は、十分に気をつけましょう。
 事故や病気等の場合は、学校に連絡をお願いします(272-0037)
 休み中も、学校には職員が勤務しています(休日・8/15(月)・16(火)は無人数となります。)

裏切られても、なお信じ続けること

「自己責任」という言葉がよく聞かれる時代になりました。自分の行為について、自分自身が責任をもつということでしょうか。現代社会の中で、常に私たちは「何かあれば、責任をとる」という厳しい立場に置かれています。

教育の中でも、子どもがした失敗や悪さについて、大人と同じように責任追及をする風潮を感じ、さみしさを感じるが多くなりました。



どちらが悪いのか、加害者と被害者という構図で問題を考えようとする。加害の方に、重い責任を取らせようとする。こうした考え方で子どもに接していくことは、子どもの成長にはつながらないように思えるのです。

以前は「連帯責任」という言葉をよく使いました。他の人のことを考え、自分の行動を考えさせようとしたのでしょう。関係のない者が罰を受けたり、お互いを監視し合ったりという課題も多く、今ではあまり聞かれなくなりましたが、お互い「支え合う」という連帯意識は大事にしたいものです。

結果の原因となるものの背景を知ること

問題行動には原因があり、原因を生み出した背景にはこの子一人の責任ではないさまざまな要素があります。たとえ勝手な言い分のように思えても、この子なり

の理由があるものです。だれも、叱られるようなことを、積極的にすることはないはずです。

その心情を私たちが感じ取り、「あなたの気持ちはわかったよ」と返してあげれば、子どもとの信頼関係が生まれます。信頼された人間はその人を裏切れないと、自らの行為を考えるようになっていきます。

そして、人間は、同じ失敗をすることもあります。前よりも厳しい罰でそれに臨もうとすると、際限なく繰り返される「いたちごっこ」に陥ります。体罰や人権を無視した言葉で、この子の心を傷つけてしまうこともあるでしょう。

次を信じて「許す」ことで子育てを

むしろしゃする



また、失敗だ

次を信じて「許す」こと。そうした寛大さがなくなってきたことが、子どもを追い込み、心を閉ざさせる原因となっていないでしょうか。何回裏切られたような思いになろうとも、許し続けることで子どもを育てていきたいと感じます。

